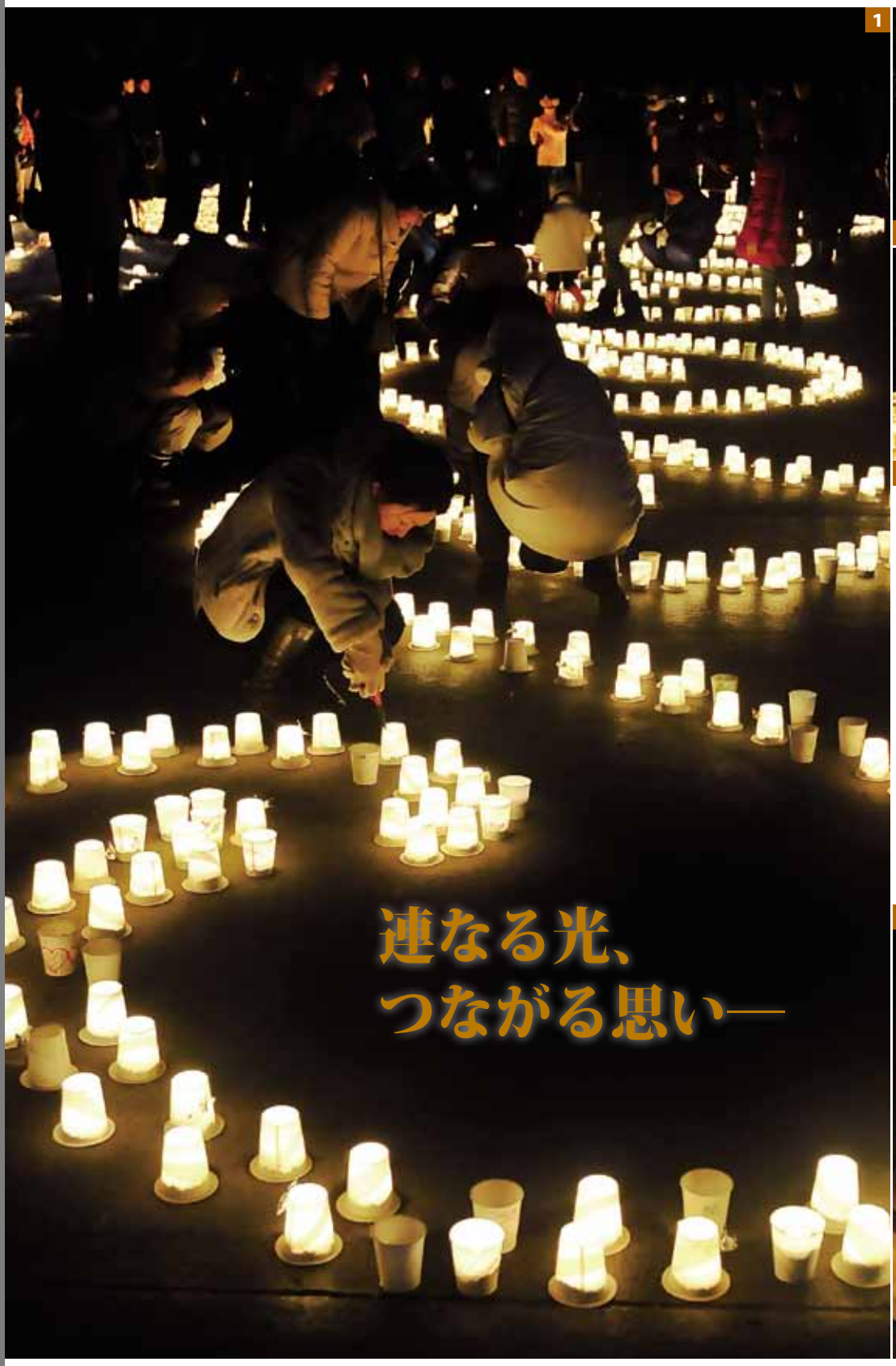
久慈港に3,800個のキャンドル

鎮魂と復興 祈り込めて

東日本大震災から1年となった3月11日、「鎮魂と復興」希望の灯(あか)りをつくる会（同実行委主催）が久慈港岸壁で開かれました。子どもから高齢者まで約600人が参加。沿岸部の小・中学生や有志が心を込めて作った3,800個のキャンドルを「ＫＵＪＩ(くじ)」「３・11」の形や、魔よけを意味するというアイヌの模様の形に並べ、火をともしました。

優しく温かい光が港に広がる中、参加者は海に向かって黙とうをささげ、全員で「ふるさと」を合唱。犠牲になった方々の追悼と、まちの復興への祈りを込めました。



1／円がつながっていくような形に並べられたキャンドル。参加者は祈りを込めて火をともしました

2／優しく温かい光を、じっと見つめる子どもたち

3／子どもも大人も祈りを込めて。光を前に、みんなの思いがつながります

4／「祈」「絆」などの文字が記された手作りキャンドル。一つ一つに心が込められています

植物油、大豆インクを使用しています
再生紙を使用しています

発行／久慈市　編集／総合政策部　〒028-8030　岩手県久慈市川崎町１番１号　☎0194(52)2111　印刷／㈲九戸印刷

※今回は紙面の都合上、編集後記は20ページ「暮らしの情報」内に掲載。「わがやのアイドル」はお休みさせていただきます。ご了承いただきますようお願いします